

# 沈降と隆起

# 大地を泳ぐために



2026 3/21<sub>[土]</sub> — 4/12<sub>[日]</sub> 入場無料

高松市美術館 M2 展示ロビー

開館時間 | 午前 9:30 ~ 午後 5:00  
休館日 | 月曜日 (ただし、3/21, 27, 28 は午後 7:00 閉館)

主催 / 東京藝術大学、香川大学、讃岐ジオパーク構想推進準備委員会 共催 / 高松市美術館

助成 / 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)

監修 / 長谷川 修一 (香川大学 特任教授 / 讃岐ジオパーク構想推進準備委員会 委員長)

柴田 悠基 (香川大学 創造工学部 講師 / 芸術未来研究場せとうち 統括リーダー)

研究協力 / 中國 正寿 (香川大学瀬戸内圏研究センター 特命助教) デザイン / 川畑 彩夏

お問い合わせ / 香川大学イノベーションデザイン研究所 TEL : 087-832-1507 【9:00-17:00 平日のみ】 HP : <https://setouchi.ac/project/geoart/>



## 参加作家

西村 雄輔  
(東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻教授)

日向 慶次  
(東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻教育研究助手)

土屋 玲 / 田沢 陽菜 / 山中 優太 / 原田 菜琳  
伊藤 奏美 / 中野 有華 / 本田 奈々 / 岡田 佳祐  
(順不同、東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻在籍者)

間瀬 朋成  
(香川大学イノベーションデザイン研究所特命助教)

柴田 早穂  
(東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了)

# ジオアート / GEOART

## 沈降と隆起——大地を泳ぐために



「ジオアート / GEOART」は、瀬戸内海地域に広がる多様な地質と豊かな海洋環境を題材に、自然が内包する時間と造形を芸術的に捉え直すことを目的とする研究的アートプロジェクトです。せとうち讃岐ジオパーク構想の推進にも寄与する本企画では、芸術と科学を横断的に結びながら、大地に刻まれた記憶や時間の層を掘り起こし、自然と人間の関わりのあり方を再考することを試みます。

本展「沈降と隆起——大地を泳ぐために」は、瀬戸内海をめぐる地質や海洋から、沈降・隆起・堆積・重力・腐食・乾燥・風化などの現象に触発された思索と絵画造形の実験の試みを紹介します。科学の知見と芸術的感覚の間を探る場として、自然がかたちを変化させるプロセスや時間の堆積を作品として可視化します。

2025年4月～10月に日本列島を東西に横断し地殻の運動や地形形成に大きな影響を与えてきた中央構造線のフィールドワークを行い、その過程で得られた知見と視点を基に構成されています。これらの成果は、2025年12月に東京藝術大学においてトライアル展として発表され、本展ではその内容を再構成し、研究と表現の往還として提示します。

### 参加作家

**西村 雄輔** 東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻 (油画第5研究室 教授)  
1976年福岡出身。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画(以下、東京藝大油画)教授。場所と対話し、即興的な行為の後にそこで起こる小さな変化の観察と行為を重ね、新たな感覚を見つけていくことを制作活動とする。ものが語る歴史を読み、今を生きる場をつくる行為の在り方を提示している。

**日向 慶次** 東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻 (教育研究助手)  
1999年岐阜出身。東京藝大油画第5研究室 教育研究助手。木彫作品を中心としたインスタレーション作品を通して、自己の身体感覚の投影方法を模索し表現する。

**土屋 玲** 油画第5研究室在籍  
1997年岐阜県生まれ。東京藝大油画第5研究室修士2年。風景とはなにか?という問いを立て、実際にその風景の中に出向き対象物と制作者を取り巻く環境を素材と色彩を使って制作。

**田沢 陽菜** 油画第5研究室在籍  
2000年青森県生まれ。東京藝大油画第5研究室修士2年。探す行為や思考を基に、「地続きとなること」をキーワードに活動。

**山中 優太** 油画第5研究室在籍  
2000年岡山県生まれ。東京藝大油画第5研究室修士2年。「私自身が感じる言葉にできない雰囲気」をテーマに様々な場所で制作を行い可視化と言語化を試みている。近年は、構造物やプロジェクト型の制作を行なっている。

**原田 茉琳** 油画第5研究室在籍  
2000年東京都生まれ。東京藝大油画第5研究室修士2年。実体験に起因する視点や眼差しを軸に表現を行う。視覚的 / 触覚的な応答を通して、感性を媒介し空間にイメージを共有する。

**伊藤 奏美** 油画第5研究室在籍  
2002年愛知県生まれ。東京藝大油画第5研究室修士1年。自分が興味を持ったものやことについて、素材や形式にこだわらない表現を行う。現在は、時間と共に失われて見えなくなっていくものに関心を持っている。

**中野 有華** 油画第5研究室在籍  
2001年埼玉県生まれ。東京藝大油画第5研究室修士1年。日常の風景や滞在行為を通して、居場所と身体の関係を探る。近年はセメントや既製品を用いて制作している。

**本田 奈々** 油画第5研究室在籍  
2001年岐阜県生まれ。東京藝大油画修士1年。リサーチを通して風景に杭を打つ行為を軸に制作を行う。最近「分水嶺」に着目し、流れの境界に現れるものを探っている。

**岡田 佳祐** 油画技法・材料研究室在籍  
1999年生まれ。東京藝大油画修士2年。石や金属等の天然素材から自作した顔料で絵画を制作。近年は石本来と異なる色を抽出した色ガラスを製作し、その粒度や色に意味を持たせ、独自の表現に融合させている。

**間瀬 朋成** (香川大学イノベーションデザイン研究所 特命助教)  
東京都生まれ。美術家。東京藝術大学卒業・同大学院修了。人間中心主義を問い直し、歴史や記憶、地質や海といった時間の層を主題に制作を行う。また、展覧会企画や教育実践を通じアートと社会の関係を探求している。

**柴田 早穂** (東京藝術大学大学院美術研究科 博士後期課程工芸研究領域修了)  
1986年大阪府生まれ、5歳より香川県小豆島で暮らす。鍍金作家・民俗史収集。富山大学と東京藝術大学で鍍金を学び、現在は小豆島に鍍金工房を構え、鍍金の素材採取を起点とした民俗史収集と制作を行う。

### トークイベント

## 沈降と隆起のあいだで—— 讃岐ジオパークを構想する

日時	3月29日 13:00-14:30	司会	柴田 悠基 (香川大学 講師)
会場	高松市美術館 講堂	登壇者	長谷川 修一 (香川大学 特任教授)
定員	先着 100名 (申込不要)		西村 雄輔 (東京藝術大学 教授)
参加費	無料		中國 正寿 (香川大学 特命助教)

瀬戸内海地域の地質や風景を題材とした展覧会、「ジオアート / GEOART」にあわせて、トークイベントを開催します。本イベントでは、讃岐ジオパーク構想準備委員会が進めるジオパーク構想の概要を紹介するとともに、展覧会に出品された作品がどのように地質学やフィールドワークと結びついているのかを、作家・研究者の視点から解説します。また、ジオパークを「大地の成り立ちを学ぶ場」としてだけでなく、自然と人間の関係をあらためて考えるための文化的な枠組みとして捉え直し、芸術がその構想にどのように関わりうるのかを語り合います。\*専門知識の有無を問わずどなたでもご参加いただけるトークイベントです



### 高松市美術館

〒760-0027  
香川県高松市紺屋町10番地4  
美術館連絡先/087-823-1711(電話)  
087-851-7250(FAX)

【アクセス】  
車 / 高松中央ICから、高松西ICから  
飛行機 / 高松空港から高松空港リムジンバス  
「兵庫町」下車約30分 徒歩約4分  
電車 / JR 高松駅から徒歩約15分 ことのでん瓦町駅  
または片原町駅から徒歩約10分  
バス / JR 高松駅から  
「ショッピング・レインボウ循環バス西廻り」  
紺屋町下車 徒歩約3分

### 讃岐ジオパーク構想推進準備委員会

「讃岐ジオパーク構想」は、香川県の大地の成り立ちや自然、歴史、文化をつなげた“地域の物語”を、教育や観光、地域づくりに生かしていくことを目指して活動しています。香川県をまるごと日本ジオパークに、そして将来的にはユネスコ世界ジオパークもめざしています。

